

官刻
孝義錄

卷三

尾張 三河 遠江

共五十

內閣文庫	和書
三五八三號	類
五〇冊	
五七函	

內閣文庫	番號	和 32583
	冊數	50 (3)
	函號	157 399



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



125

孝義録卷之三

尾張國

孝行者

尾張國領分
名古屋城下上七回町

○孝行者

同領
海西郡古方地村

孝行者

同領
海西郡大室町田

孝行者

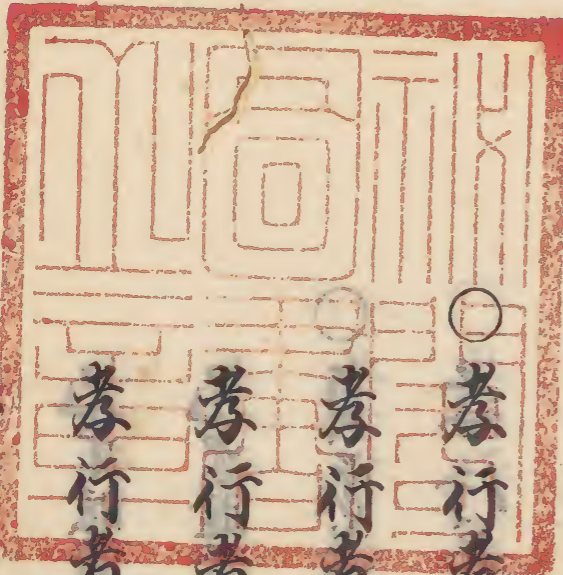
同領
知多郡小野浦村

孝行者

同領
知多郡成岩村

忠義者

同領
知多郡古貝村



町本三右衛門

百姓若六娘

百姓甚之郎娘

百姓清之助娘

百姓孫之助娘

百姓只在門下女

五三若清

二十七歳

宝曆十二年

安永

十四歳

安永三年

安永

十八歳

安永九年

天明

十八歳

天明元年

天明

十四歳

天明元年

天明

十六歳

天明元年

孝義録卷之三

兄弟睦者 同領 名古屋城下山田町

兄弟睦者 同領 同所

兄弟睦者 同領 同所

○貞良者 同領 海東郡新居屋村

○孝行者 同領 海東郡平元荒井村

○孝行者 同領 海東郡日置村

孝行者 同領 海東郡押切村

孝行者 同領 春日井郡清洲村

町人借居住桶屋

百姓

百姓

百姓文彦後家

百姓

百姓

百姓借居住利多清次男

百姓改居島娘

百姓増石為妻

山伏若主娘

百姓

百姓借居住

町人借居住

町人借居住甚六娘

火之見吉定八将

百姓借居住

若 二十歳 天明元年

若 二十歳 天明元年

若 二十歳 天明元年

儀 二十歳 天明二年

丹 二十歳 天明二年

若 二十歳 天明二年

若 二十歳 天明二年

若 二十歳 天明二年

若 二十歳 天明二年

若 二十歳 天明二年

若 二十歳 天明二年

若 二十歳 天明二年

若 二十歳 天明二年

若 二十歳 天明二年

若 二十歳 天明二年

若 二十歳 天明二年

孝行者

同領 谷吉屋城下依倉町

町人借本住

志

天明三年

孝行者

同領 海西郡福永新田

百姓太左衛門

太右衛門

天明三年

貞義者

同領 海西郡東川村

百姓磯左衛門

文

天明四年

孝行者

同領 春日井郡阿茶村

百姓

文左衛門

天明四年

孝行者

同領 春日井郡阿茶村

百姓信四郎

信

天明四年

孝行者

同領 中津郡一宮村

百姓藤左衛門

林左衛門

天明四年

孝行者

同領 志和郡二女子村

百姓

依右衛門

天明四年

孝行者

同領 志和郡小方村

百姓彈左衛門

又

天明四年

孝行者

同領 志和郡西野村

百姓六郎左衛門

如

天明四年

孝行者

同領 志和郡大岩村

百姓

太次郎

天明四年

孝行者

同領 志和郡名切村

志和郡五郎

己

天明四年

孝行者

同領 志和郡久米村

百姓

勘

天明四年

○孝行者

同領 春日井郡小幡村

百姓孫助後家

安次郎

天明四年

孝行者

同領 志和郡勢田須賀浦中町

町人

長

天明四年

孝行者

同領 同所

長八

又

天明四年

孝行者

同領 志和郡勢田須賀浦太子町

町人小左衛門後家

又

天明四年

○孝行者

同領 愛知郡熱田

社家鏡味福本大丈娘

二十九歳

天明四年

孝行者

同領 名古屋城下清水町

町人若呂後家世紀娘

二十九歳

天明四年

忠義者

同領 名古屋城下上田園町

定使

二十九歳

天明四年

孝行者

同領 中津郡苅安賀村

百姓安太弟の妻

二十七歳

天明五年

農業者

同領 春日井郡春日井新田

先庄名

二十五歳

天明五年

農業者

同領 海東郡木田村

百姓

二十六歳

天明五年

農業者

同領 同所

要養將

二十歳

天明五年

孝行者

同領 愛知郡古波村

百姓新助後家娘

二十一歳

天明五年

孝行者

同領 名古屋城下盤石町

町人借住住新助將

二十八歳

天明五年

孝行者

同領 名古屋城下盤石町

町人借住住勘七將

二十九歳

天明五年

孝行者

同領 名古屋城下下田園町

町人借住住長子弟娘

二十九歳

天明五年

孝行者

同領 名古屋城下建中寺口本

町人借住住定平娘

二十九歳

天明五年

孝行者

同領 名古屋城下下田園町

町人家持若菜妹

二十七歳

天明五年

孝行者

同領 名古屋城下具肢町

町人借住住

四十歳

天明五年

孝行者

同領 同所

在右邊門前

四十歳

天明五年

孝行者

同領 名古屋城下伊勢町

町人家持大工

五十歳

天明五年

孝行者

同領 家未答國書助在浦地招城住居

楓師文七將

孝行者

同領

孝行者

同領 丹羽那丹羽村

孝行者

同領 中島那宮村

孝行者

同領 丹羽那津野村

孝行者

同領 知多那村本村

孝行者

同領

孝行者

同領 丹羽那樂田村

勤次郎

天明五年

佐

天明時

中次郎

天明六年

源七

天明六年

佐

天明六年

勤太郎

天明六年

佐

天明時

鈴村雲松

天明六年

孝行者

同領 葉栗那笹野村

越法登宗右為妻

孝行者

同領 中島那宮地苑池村

百姓吉丸為才

孝行者

同領 中島那宮地苑池村

百姓

孝行者

同領 葉栗那光母寺村

百姓

孝行者

同領 中島那花丹方村

百姓孫左為娘

孝行者

同領 知多那石濱村

百姓孫左為娘

孝行者

同領 春日井那田梁村

百姓持左為妻

孝行者

同領 丹羽那真入康村

百姓持左為妻

三ノ人

天明七年

二ノ人

天明七年

一ノ人

天明七年

常七

天明七年

源七

天明七年

新太郎

天明七年

その

天明六年

孝行者

同領 春日井郡春日井系新田

忠義者

同領 名古屋城下洗池町

忠義者

同領 名古屋城下長者町

百姓

隅

助

寛政二年

孫

八

寛政二年

治

源助

寛政二年

Faded vertical text columns, likely names and dates of other figures.

孝行者也よ

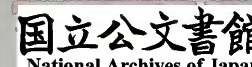
Main handwritten text block on the left page, describing a filial piety story.

一、この例もよ〜おめくちま〜おら〜い〜
 風もい〜と〜おめあ〜り〜い〜ら〜る〜お〜ら〜い〜
 ち〜ら〜ら〜事〜ら〜ら〜い〜い〜あ〜い〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
 いう〜く〜家〜系〜を〜と〜あ〜い〜く〜ら〜そ〜あ〜と〜あ〜あ〜い〜く〜ら〜ら〜ら〜
 け〜ふ〜を〜と〜く〜い〜い〜皆〜免〜つ〜い〜そ〜う〜よ〜と〜れ〜ゆ〜ら〜と〜福〜と〜
 え〜う〜く〜れ〜よ〜ま〜と〜い〜い〜ゆ〜め〜あ〜の〜衆〜ふ〜の〜道〜の〜い〜く〜ら〜ら〜
 人の〜庭〜か〜と〜ふ〜那〜居〜く〜る〜事〜も〜あ〜り〜い〜と〜と〜あ〜い〜ら〜
 乃〜故〜帳〜を〜持〜り〜く〜父〜の〜身〜を〜お〜わ〜い〜奪〜れ〜い〜と〜い〜
 ち〜ら〜い〜い〜あ〜い〜く〜ふ〜せ〜く〜ら〜ん〜か〜と〜人〜く〜あ〜い〜と〜建〜し〜み〜
 あ〜い〜く〜ら〜ら〜若〜ふ〜も〜と〜い〜の〜い〜ま〜あ〜る〜と〜れ〜あ〜と〜酒〜

と〜飲〜と〜ふ〜く〜く〜飲〜ら〜る〜あ〜い〜ま〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
 の〜事〜ふ〜い〜感〜し〜と〜れ〜れ〜跡〜を〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
 の〜人〜の〜も〜娘〜の〜志〜を〜い〜く〜と〜い〜く〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
 に〜願〜ふ〜の〜り〜の〜徳〜を〜あ〜い〜く〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

貞節者といふ

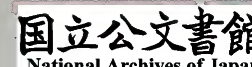
海東郡新居屋村の貞〜
 お乃七奉〜と〜た〜い〜世〜よ〜い〜ま〜
 衆の〜う〜ら〜ら〜い〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜
 せ〜死〜せん〜後〜よ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
 う〜あ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜



今いづれ身の上よりく家もよほち候先とて別
のら耕しあるの積をふ事と業とらして負し
世よりいり同し里のへくも彼ら行ひ乃い
よ感して若しものもるを懇懇よりのり
そのけりくわとかく頼まにといえんれが天明
二年とりやよ獲美せりれい
孝行者丹六

丹六の海東郡日置村に百姓あり若し時々の孝
ふ源くいのいしこをさしけしと遠く方に勤免
と多くい同村乃うらに若し若しふ暇を乞ひに

親を久あつての父よとれ妻子もあつて
あり十三年ころい母ひらりい女も
やうくに年老めいしに年とやめ農事と
もたつて附木割松孫に実と愛ありこ
ありての草履糸鞋を作して世よりあつて
母の老さのありけしと病あつて孝に丹六の
相へまら食ををさつていしと通さぬ起居
も自由あらは明らな彼くといふと病し程も
らふ時よの心それ側をといふは暇あまの通さ
村くの高よの母の好めつ物とお先づつてとあ



りて復お母もまゝに御座りて御座りしに侍に詣りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて

孝行者代告

代告の愛知郡日並村親福寺裏の借屋おまを名々の
知くして父と語りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて

かくに憐れむとばあひのしに知らば彼れ母れ骨に
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて
お母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りてお母もまゝに御座りて

湯薬中への食料とありてとてさう高く高ひよある
 時の膳乃らふものもふと流るるをいふと福んころは
 けりやうへりやうへり者らも母もこれのひのうを
 とてあつたしうらうらうらうらうらうらうらうら
 領主にやうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 とて時の年十歳に及ぶたかたかたかたかたかたか
 孝行者安次郎
 安次郎のま日井初小幡村乃百姓孫助とふるまの父
 の世に早うせうらうらうらうらうらうらうらうら
 母れやうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

くけりやうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 志のけまらあり母れ愛胖といふる病は腰と入るえと
 おとらるる時うらうらうらうらうらうらうらうら
 を安次郎のそれ女抱ふんとてうらうらうらうらうら
 事ふらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 いたく持て入つて母れうらうらうらうらうらうらうら
 あつたうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 糧とありてとて極うらうらうらうらうらうらうら
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

此方とありせよとあるは神事をも終らせしもの
 かくて知よかへんとせし時母よりいふこといふ父の
 老く思負しゆく初末乃事一見果あけ進と我
 男いけ地もともあつ居くおいらんうらうらあはれその
 上知よのやうへしとく母よりいれく父を孝のいけ
 里父乃こいめく賣く男を並へしとくもあを
 進ひ日しく小物をて世に渡りて今いれあもふ心
 海からされいそれをもあつ均たりし程よのい
 持るるありし衣服とことくく賞代ありしゆも
 針もこ人のやとそれかして孝のい乃たは事とせ

且進よこはれ米乃價高く宿ふ人もらくあへ
 とも不難難にうらうけ進い志とくか程なふもい
 ちとこ人の事ともあつうらうと媒とるものもあ
 ちと老くあつ父乃見えとあつわつてまうらひんうら
 いいうもして小抱をうけ父か死後い知へのか
 ぬに對面せんといふうら外乃事ありとこへく
 いふく孝養にんをさうくうら申も父の飲ふ
 物ハ何れもそれらまよあせし後よつる子領主
 小安えく寝美をうらせられくハ天明四年乃
 事しちあり

Handwritten text in vertical columns, likely a list of names or titles.

三心國

奇特者

代官支配所 額田龜穴村

奇特者

同支配所 淡美郡城下村

奇特者

同支配所 宝板郡赤坂宿

奇特者

同支配所 八名郡桑本村

奇特者

同支配所 八名郡大野村

奇特者

同支配所 備前郡尾花村

奇特者

同支配所 宝板郡國府村

卷之三

百姓 名主 同左 名主 名主 名主 百姓

長太史

所廢 不知

源右郎

六十歲 所廢 元文五年

差十郎

五十六歲 所廢 寬政六年

八右衛門

二十七歲 同時 所廢

久玄清

四十九歲 同時 所廢

吉友齋

五十歲 同時 所廢

大郎右衛門

五十一歲 同時 所廢 寬政六年

十四

孝持者

同支配所
宝板郡高野村

百姓

長之郎

同時
沖獲美

奇特者

同支配所
宝板郡中馬村

百姓

忠玄清

同時
沖獲美

孝行者

松平伊豆守領分
八名郡天王村

百姓

九郎重

安永六年
獲美

孝行者

同領
渥美郡牟呂村

百姓

忠太郎

天明七年
獲美

孝行者

同領
宝板郡紫原村

町人清七下男

十之丞

天明八年
獲美

忠義者

松平和泉守領分
西尾城下本町

百姓甚平後承三の娘

又右

天明八年
獲美

○忠孝者

同領
幡豆郡赤池村

町人庄九郎妻

忠人

寛政三年
獲美

孝行者

同領
西尾城下天王町

町人
辛五歳

の

寛政三年
獲美

孝行者

同領
西尾城下本町

町人

七郎重

寛政三年
獲美

孝行者

同領
水野左地將監領分

百姓
百姓控去清娘

七蔵

寛政三年
獲美

孝行者

本多中務大輔領分
頼田郡古新村

百姓

七郎

享保十七年
獲美

孝行者

同領
頼田郡切山村

無田百姓孫去清娘

基之助

安永六年
獲美

孝行者

同領
碧海郡三木村枝上福相村

百姓
百姓惣太郎妹

己之助

安永六年
獲美

兄弟睦者

同領
幡豆郡野場村

無田百姓新七将

己之助

安永六年
獲美

孝行者

同領
碧海郡中村枝江正名村

町人
町人鍛冶

徳之助

安永六年
獲美

孝行者

同領
同崎城下材木町

新助

安永六年
獲美

孝行者

同領 珣石海郡大林村

孝行者

同領 珣石海郡中村松江二軒屋

孝行者

同領 同所

孝行者

同領 同所

孝行者

同領 同所

孝行者

同領 珣石海郡小門村

孝行者

同領 額田郡上大門村

孝行者

同領 幡豆郡野場村

唐名

百姓七三郎娘

同

同

同

百姓勘三郎將

百姓次平左衛門將

百姓

孝行者

安永六年

孝行者

安永六年

孝行者

同時

孝行者

同時

孝行者

同時

孝行者

安永六年

孝行者

安永六年

孝行者

安永六年

孝行者

同領 珣石海郡下青野村

孝行者

同領 珣石海郡下青野村

孝行者

同領 珣石海郡上野上村松江永覚新

孝行者

同領 珣石海郡小野村

孝行者

同領 同所

孝行者

同領 額田郡古於村

孝行者

同領 額田郡古於村

孝行者

同領 内宿右近將監領合 孝母城下東町

百姓

每田百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

新七

安永六年

九

安永六年

八

天明八年

利右衛門

寛政元年

孝

同時

佐九郎

寛政三年

清右衛門

寛政二年

十

明和二年

農業者

同領 孝母城下本町

百姓

喜多

寛政三年

孝行者

同領 孝母城下北町

百姓

八之郎

寛政三年

奇特者

同領 加茂郡今村

百姓

清六

寛政三年

兄弟睦者

同領 加茂郡今村

百姓

基茂

寛政三年

奇特者

同領 加茂郡今村

百姓

浦野

寛政三年

農業者

同領 加茂郡今村

百姓

十右衛門

寛政三年

奇特者

同領 孝母城下本町

百姓

差市

寛政三年

奇特者

同領 孝母城下中町

百姓

差之市

寛政三年

奇特者

同領 加茂郡今村

百姓

九右衛門

寛政三年

孝行者

大園子太郎領分 宝飯郡四方村

百姓

五郎

明和五年

孝行者

安部橋保守領分 八名郡中守利村 福津新田

百姓

小之郎

宝曆六年

孝行者

巨勢求馬助知行物 宝飯郡長海村

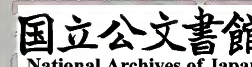
無田姓平左衛門

己

寛政三年

ぢのれいとぬふらいて家よひり一はかれさそ目よ
 織り二はまれのねとこ是てまのつこ一あつりの親
 族をねとこつり代まへ縁あるは来まると来めて
 毎にをくの窮はまれば許の宿へをこ十町よあり
 一道と二之把つ曉ふふらつこつひのり又二日
 ころよ必女否といひぬ事とつるよまれば事とつろ
 ころよつあつろく孝女の志あつは暇をらいて母
 と同くせは骨あつこつころらめとつひけぬはま
 それころら事なれと今更ぬころらまの不登とつ次
 ころたらまん事いふらふ不意のもあつはまこつこ

ころの通ころ井筒よせんころ砂糲よりまへて掃
 ころのひひつろく親族をころめそれころののち
 ころねと家乃ころよ井とほりあるよ成人奉ころ
 人の井とつこ今に事つてまこつころあつぬわと
 同ひころらつころも母れ力なうやくとらつて
 下はよまけてそれ骨もまころん事とつひころつて
 ころころらつころとつひまらあつ考よめつころ
 もれ費いぬ事ハ母よ宿りいふころあつてつれと
 てあつぬるも母よ忠告つころのしは言つころと
 ころらつころの忠告遠よ採くあつひけつころ



願主も寛政三年六月より米をめぐへく賞しその

事特者ると
あるは碧海船上船上村の板はなる米先新郷の百姓
毎た船の妻あり天明六年九月風ありく船を
て家を歩きしつげりよまはこれに踏つえとく外
面よりつらひりけしとこれ婦乃日るをて婦あり
よらたきとてあき道に出りよらたき事ありあ
娘れはつとありなると強しよらたきありあり
あきとて夫とてその女れ身よして子れあかられを
とすつとやめるとれを助まきつとて甲斐とて

と物ありい願主よとてえられいありと八年乃
十二月といふは寝美して米ととらせつとて

孝行者利右衛門

孝行者と免

利右衛門は碧海船上野村乃百姓ゆくとるも八石六斗
ありありとらつとて生れつとて母の實あり婦乃とめ
ありつとて母よつとて孝行ありもとらありあとい
くてき異乃梅へえつとて母の母よつとて母の
とせ約夕の食物を精しめと梅に心を有てとれ
ととめ膳をいといつとて梅とつとて母の母

あるまじくともいふれたいをやうとあはれまはりけり
 とはあよふあつらふひよもあつらぬをれいれり
 るよあつらふことよよ譲りていれあふ利を果し
 ころよほひ嫁とあつらふことよよ譲りけりといれを今
 よ急らば孝を果すとつら利を果つら妻子ともよく
 譲といつてこのまはりけりあひ暗ひるまはり願を
 より賞して寛政元年九月利右衛門小波と来
 とあつこれよの年とよふ孝を果すあつらふせん
 米穀もつらせとあよの根をあつらふこれつらふり
 身を強ふつらせとあよの根をあつらふこれつらふり

孝行者小三郎

小三郎の父名利村乃福津新田小住める百姓と
 といふは父の七と郎とこれ母乃よよ孝を果して
 あつらふ目とあつらふ目とあつらふ目とあつらふ目と
 持ある田地と申れ新田よつら方林をりつらに
 らよもあつらぬ盲人のあつられ耕と業をかりけり
 小三郎といふそのよあつらふあつらふ作らしむ
 これとあつらふあつらふ結庵多く年とこのあつらひ
 一からあつらふ年貢課役かと僕よのあつらひ
 小三郎もあつらふいふいふあつらひあつらひ

病多くそれより母も自らうらぐりしてその身は業と
 入るふも母のせむしうらぐりし妻とむしうらぐり助を申あか
 く思ひはせしとことこの母れんをへむうらぐりせし
 それよりうらぐりふをれあるへも母は泣き且とうらぐ
 へ要らばかゝらうらぐり乃若くとも泣きうらぐりぬら
 せむしのく今うらぐりぬら泣き乃ありしと養ひて
 助をうらぐりぬら泣きぬら泣きの林ぬら泣きぬら泣き
 乃不と泣きぬら泣きの泣きぬら泣きぬら泣きぬら泣き
 ぬら泣きぬら泣きの泣きぬら泣きぬら泣きぬら泣き
 ぬら泣きぬら泣きの泣きぬら泣きぬら泣きぬら泣き
 ぬら泣きぬら泣きの泣きぬら泣きぬら泣きぬら泣き

かゝる母の病も自らうらぐりしてその身は業と
 入るふも母のせむしうらぐりし妻とむしうらぐり助を申あか
 く思ひはせしとことこの母れんをへむうらぐりせし
 それよりうらぐりふをれあるへも母は泣き且とうらぐ
 へ要らばかゝらうらぐり乃若くとも泣きうらぐりぬら
 せむしのく今うらぐりぬら泣き乃ありしと養ひて
 助をうらぐりぬら泣きぬら泣きの林ぬら泣きぬら泣き
 乃不と泣きぬら泣きの泣きぬら泣きぬら泣きぬら泣き
 ぬら泣きぬら泣きの泣きぬら泣きぬら泣きぬら泣き
 ぬら泣きぬら泣きの泣きぬら泣きぬら泣きぬら泣き
 ぬら泣きぬら泣きの泣きぬら泣きぬら泣きぬら泣き

うららりて食しうらららされは初めくもあま家
 つふしてまじむくくはうららるる孝人ぬくく
 て年たけ程いあうあうのれい講元とてく見
 近村の人ともくう不具れあうららるる志後
 けらぬを感くはれららせて助きつてとされ、領
 こまりのも獲りあうとく業とて後とをあてへく
 寶曆六年六月廿二日とて安えり

遠江國

忠義者 井上武三郎領分
濱松城下塔町

町人幸助下男

五平 天保七年
慶長

潔白者 日領
及知那入野村

百姓

清右 天明八年
慶長

忠義者 日領
濱松城下七軒町

町人

万太郎 寛政二年
慶長

奇特者 太田備中守領分
城東和捕田村

庄屋

五郎 安永九年
慶長

奇特者 日領
豊田郡源見村

庄屋

七郎 安永九年
慶長

孝行者 日領
依野郡初馬村

百姓 仁平次妻

ちよ 天明四年
慶長

孝行者 松平多門知行所
豊田郡赤野村

百姓

宇右衛門 寛政二年
慶長

孝行者 同知行所 豊田郡三井新田村

百姓 武右衛門 寛政三年

孝行者 松平八郎知行所 山名郡飯田村

百姓 市之助 天明六年

○兄弟睦著 同知行所 山名郡飯田村

百姓 大正郎 寛政二年

孝行者 本多千八郎知行所 城東郡下平川村

百姓 七次郎 寛政七年

孝行者 同知行所 城東郡下平川村

百姓 清七 寛政七年

○潔白者 同知行所

百姓 前六 天明八年

○潔白者 清吉の妻和郡入野村乃百姓の天明八年三月

女五日乃新濱松の驛に支役乃助小出の驛乃
うらみく銭入を拾へり道より孫人よあつ子
しめを主れ志れりりこれ懐みして見附乃
驛中へくそのおと送りぬらと回屋のもれよくハ
ふくしいてふのといけつ小回國寺谷村乃梅六とい
へる者れおとせらるうらみかあまの役人ともも
小袋乃うらみと改めくに金と命と米の切手な
こめりけしむらぬまよへりあまへくそをいけり

養あけぬららよ出ひしはくはしても用ありて
 其のいんらんく道よてぬきてあふ事もまじり
 こ末の事いやり通るれは日く小形りの秋葉
 山よも兄弟ともよあつてその田野よありても
 通る所よ見あつてぬきしはくはして休て物修
 せしはくは高十名もつららるる末の事よま
 せしはくはつららるる地よの事あつてつららるる
 物よ金よつららるる見の七名乃所よもやと
 ちんちんしつららるる事あつてつららるる事
 しつららるる事あつてつららるる事あつてつららるる事

おまじしつららるる事あつてつららるる事あつてつららるる事
 といひてつららるる事あつてつららるる事あつてつららるる事
 ありつららるる事あつてつららるる事あつてつららるる事
 ころつららるる事あつてつららるる事あつてつららるる事
 ころつららるる事あつてつららるる事あつてつららるる事
 父の時りの佛神と信へる事あつてつららるる事あつてつららるる事
 ありつららるる事あつてつららるる事あつてつららるる事
 ともよひつららるる事あつてつららるる事あつてつららるる事
 領主らの獲あつてつららるる事あつてつららるる事あつてつららるる事

